

MDASH応用基礎プログラムに関する自己点検・評価

2024年度に実施した「サレジオ高専MDASH応用基礎プログラム」に関する自己点検・評価結果を示す。

評価実施日:2025年3月24日		
評価組織:教務部会		
評価対象:2024年度に実施した「サレジオ高専MDASH応用基礎プログラム」の取り組みについて		
自己点検・評価の視点	取り組みと評価	評価結果
1. プログラムの履修・修得状況	プログラムに含まれる全ての科目がサレジオ高専情報工学科の卒業要件に該当しており、本学科に所属する全学生が、卒業までに履修および単位修得を行う制度となっている。そのため、第1学年で履修する「情報倫理」「情報社会論」の受講生の履修状況・修得状況はともに100%である。教育プログラムの履修状況および単位の修得状況は、成績操行会議および及落判定会議において確認できる。修得状況が芳しくないと判断された学生に関しては、クラス担任や授業科目担当教員で情報を共有し、ヒアリングや補習を実施するなどして単位修得のサポートを行っている。	A
2. 学修成果	第1学年で履修する「情報倫理」「情報社会論」の修得状況は100%であり、データサイエンス・AIに関する基本的な知識や素養、AIを実現する手段を低学年の段階から十分に理解できていると考えられる。	A
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	全学生・全科目を対象に「到達目標達成度アンケート」を実施しており、学生の学習状況や内容の理解度を分析している。「情報倫理」「情報社会論」のアンケート結果では、プログラムの受講生である情報工学科の9割以上の学生が到達目標の達成に対してポジティブな回答を示している。	A
4. 学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	令和5年度の「情報倫理」の到達目標達成度アンケートの結果では、すべての学生が後輩等の学生への受講を勧めることに対してポジティブな回答をしている。データサイエンス・AIの学習に対して十分な興味を示す学生が多く、授業内容についてもある程度の満足度が得られていると考えられる。今後は、プログラムに含まれる全ての授業の全受講生に対して、推奨度に関するアンケート調査を継続的に実施する必要がある。	A
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和6年度の履修者数は56名だが、令和7年度からは情報工学科の入学定員が160名となるため、本教育プログラムの履修者数増加は確実である。	A
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和7年度時点で本教育プログラムの修了者として卒業した受講生はいないが、今後、卒業生の就職した企業等から定期的な意見聴取を行う必要がある。	A
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	「情報社会論」の授業は実務経験者が担当し、本教育プログラムの主体であるデータサイエンス・AIに関する実践的な内容で授業を構築・展開している。今後、就職した卒業生へのアンケート調査を実施するとともに、地域連携の窓口でもあるイノベーション commons を通して、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等についての意見聴取等を行う必要がある。	A
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	具体例や社会的背景を踏まえた、実践的なプログラミング実習やデータ処理の体験ができる科目が取り入れられている。到達目標達成度アンケートでも8割以上の学生がポジティブな回答をしており、修得状況からも受講生が学ぶ楽しさや意義を感じていることを確認することができる。学ぶ楽しさ・意義に関する継続的な調査を行う必要がある。	A
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	第1学年で履修する「情報倫理」の授業は、授業担当のほかにSA・TAによる2名体制で実施されている。他の実習科目においても、複数名の担当者によって授業が展開されており、少人数を意識した授業構成となっている。実習の際に使用しているPCルームには1人1台の端末が確保されており、各自の進捗状況に合わせた作業が可能であり、プロジェクターとスクリーンを用いた映像等を取り入れた授業も可能な環境である。受講生にとってより有益かつ需要に合った授業となるよう、アンケート結果をもとに振り返りと授業改善を実施している。	A

評価基準【S・A・B・C】

S:計画・目標以上の成果(又は効果)を上げられた。

A:計画・目標通りの成果(又は効果)を上げられた。

B:計画・目標通りではないが、ある程度成果(又は効果)を上げられた。

C:計画・目標とした成果(又は効果)を上げられなかった。